

報告項目: 広島土砂災害・阪神・淡路大震災の 情報収集・概要について	報告者: 山田美智子 (055)
＜主な報告内容＞ 『平成26年8月豪雨による広島市の土砂災害』の概要 平成26年8月20日 広島市北部の安佐北区や安佐南区等の住宅地で豪雨に伴い、大規模な土砂災害が発生した。 「災害の気象要因」は、秋雨前線に向かう暖湿流と不安定な大気を主な要因とする集中豪雨。バックビルディング型線状降水帯の停滞。 「気象記録」としては、安佐北区で287, 0ミリの最多雨量 「人的被害」は75人、「全壊」133棟 「半壊」122棟 「床上浸水」1, 301棟。 2014年8月20日 午前3時20分～40分にかけて局地的な大雨によって安佐北部可部、安佐南区八木・山本・緑井等の住宅地後背の山がくずれ、同時多発的に大規模な土砂災害が4時20分ごろには可部3丁目付近で根谷川が氾濫した。 災害対策本部のまとめでは、8月22日時点で土砂崩れ170ヵ所、道路や橋梁被害290ヵ所 安佐南区から安佐北区にかけて 約50ヶ所で土砂流出 (国土交通省の発表によると土砂災害の人的被害として過去30年年間日本で最多。3時20分に崖崩れの通報があったのにもかかわらず、広島市からの避難勧告発令は4時30分。1999年発生の6. 29豪雨災害の教訓が生かされなかった。 しかし、もし避難勧告が早く出されたとしても、暗闇で水が激しく道を通れる中はたして避難ができるか、課題もある。 「罹災証明書」は9月28日までに4, 696件発行。「がれきや土砂を搬出」するのに100億以上 「地質」としては水分をふくみにくい「まさ土」の地盤が広がり表層崩壊が発生したと当初考えられていたが、まさ土だけでなく堆積岩などかたい地盤流失も確認された。 砂防ダムの整備の遅れも被害の原因。 ※今回八木ヶ丘町内会の山根副会長のお話をお聞きした中にも地域での町内会の取り組みや対応がわかり参考になることがたくさんあります。 「異変に気がついたが少し明るくなって道路が通行できるか様子を確認して避難した。異様なにおいがするのも特徴。もっとも被害が大きかった八木3丁目に捜索隊が集中。八木ヶ丘団地に行方不明者がいても後まじだった。消防も全体像を把握できておらず町会の地図を渡した。 例のないスピードと破壊力。2次災害の恐れがあった。道路は大渋滞。 避難所に行っての町内会の方の安否確認。避難した方々は近所の方と暗闇の中声を掛け合い手と手をつないで協力しながら避難した。警察もパニック。重機はない。 世帯別の被害調査票を作成。ボランティアの方々に対する対応やマスコミの取材に追われた。 復旧作業が一段落したのは10月」等参考になる体験を知ることができました。 「阪神・淡路大震災に関しての概要や情報」 1995年 1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震による大規模地震災害 『震災の教訓』 ◆初動体制の大切さ災害対策要員の不足・情報通信システムのマヒ 防災関係機関相互の連携の大切さ・地域防災力の大切さの再確認	

近代的な都市での災害時のもろさ(高速道路の崩壊・高架橋の落下・港被害)

○戦後最大の都市型災害

◆災害の備えは充分には進んでいない。

○兵庫県は15年度の住宅耐震化率を97%とする目標を掲げてきたが85.4%にとどまり目標達成は困難。

○神戸市の新長田駅南区の再開発事業は44棟を建設する計画だが6棟が未着工。

○被災地は借り上げ復興住宅の期限を迎えるなど課題が残っている。

○独居死は復興住宅で33人と15年1年間で減ったが8日以上たって発見された人は増えた。

『これからの取り組み』

◆1,17の21年目を迎えて20周年の昨年より減少したが、中央区東遊園地で開催された集いには6万1千人が参加。地域によっては追悼行事やめた、地域もあるが、継続して震災を体験していない世代にも伝えて行くことが大事。「1,17のつどい」は市民活動団体「神戸・市民交流会」が1998年に始めたが高齢化のため解散。若い世代のNPO法人に受け継がれた。2016年は【未来】という文字を浮かびあがらせた。

◆1995年阪神・淡路大震災では全国からたくさんのボランティアがかけつけ支援を行い「ボランティア元年」と呼ばれた。

21年目を迎えてボランティアの活動はますます必要とされ多様になってきている。ソーシャルネットワークの活用によってこれまでの被災地では出現しなかった「移動ボランティアセンター」という被災者に寄り添ったシステムがあらわれた。2014年8月の広島市で発生した土砂災害の際など川のように流れる道路に被災者とボランティアが共同作業で土のうを積み、フェイスブックやツイッターでボランティア応援を募り、被災者の家や庭が急造のボランティアセンターになる。「新しい公共」の取り組みが広がる。

◆神戸市主導で行われた再開発。

マンションと商店街が一体となった複合施設群等空き店舗やシャッターどおりとなっている所もある。兵庫県と神戸市が合同で1棟を平成2017年度から新庁舎として建設し、19年度の完成をめざす。

◆2014年に神戸市中央区に開設された「人と防災未来センター」では「災害メモリアクションKOBÉ」のプロジェクトが始まっている。

震災を知らない若者が体験を聞き新たな語り部として次世代に伝える。

◆震災・学校支援チーム[EARTH]教職員チームの被災地での心のケア 支援活動の取り組みにも注目。

※内閣府は戦後における伊勢湾台風、阪神淡路大震災、東日本大震災など大災害の教訓を踏まえ、地球温暖化に伴う気候変動がもたらす災害の激甚化の備える「防災4.0」という未来構想プロジェクトを立ち上げている。行政のみならず、住民や企業など多様な主体が参画するネットワークを構築し、社会全体で災害リスクに備える取り組みを促進するプロジェクト。

神奈川県の場合、都市型災害を意識してその地域にあった地区防災計画を構築していくことが大切だと思っています。

<提言など>

今回の広島・神戸の視察では松山先生との交流会のみが皆で参加できましたがもう少し事前に良く調べて準備をし「震災モニュメントや慰霊碑めぐり」等ガイドして下さる人を見つけて企画するなどして、街の色々なところで被害がありどう復興したかを実感すれば良かったのではないかと思います。